

(令和3年(2021年)1月15日)

令和2年度(2020年度)エゾシカ対策有識者会議
(第7回エゾシカ管理のあり方検討部会)
議事録(概要版)

日時 令和2年(2020年)12月18日(金)9時15分~12時00分
場所 北海道立道民活動センター かでる2.7 1040会議室
出席者 別添「出席者名簿」のとおり
議題 北海道エゾシカ管理計画(第6期)の検討について
(1)北海道エゾシカ管理計画(第5期)の実績評価
(2)北海道エゾシカ管理計画(第6期)の方向性
(3)今後のスケジュール
(4)その他

議 事

(1)北海道エゾシカ管理計画(第5期)の実績評価

ア 事務局(寒河江補佐及び網倉係長)から資料1~10に基づき、現計画(第5期)の実績及び評価(事務局案)について説明。

イ 質疑応答等(有 ・ 無)

(宇野部長)屋外内臓摘出に係る道の考えを伺いたい。

(事務局(寒河江課長補佐))屋外内臓摘出に関しては、大変重要な課題だと認識しているが、現状として、道では捕獲個体の屋外内臓摘出を推奨しないこととしており、この考え方が変わることは当面ないものと考えている。

一方、国産ジビエ認証においては、一定の講習を受けた者が屋外内臓摘出したシカ肉は認めることとしており、道として、国の検討状況等も踏まえながら、将来的なエゾシカ流通のあり方について、検討していきたい。

(伊吾田部会長)現在は国産ジビエ認証もあるが、道のエゾシカ認証の方がレベルが高いということをアピールすることも今後は重要になってくる。

(沖構成員)道が設定する捕獲目標と市町村が設定する捕獲目標とは根源が異なるが、両者の整合を図るとはどういうことか。

一斉捕獲について、道が実施モデルのようなものをいくつか示せば、市町村がより参加しやすくなるのでは。

狩猟者の育成については方向性が曖昧のように感じる。趣味の狩猟者を増やすのか、それともセミプロ又はプロの狩猟者を増やすのか。その辺りを具体的に考えるべき。併せて、安全な狩猟の実現には射撃練習が必要。次期計画には市町村と連携した安全対策の取組などについても記載しては如何か。

(事務局(網倉係長))市町村の捕獲目的は被害防止であり、道の個体数調整とは異なるということ、また、市町村の捕獲目標は予算に左右されるということは承知しているところ。道の捕獲目標と整合を図りつつ市町村ごとの捕獲目標を設定するのは難しい課題であるが、これまで、捕獲目標の設定に対する市町村とのやり取りが決定的に不足していたと考えており、まずは市町村との共通認識や合意形成からスタートしたい。

一斉捕獲については、地域ごとに効率的なやり方が異なるかと思うので、地域に合った方法で取り組んでいただきたいと考えている。

狩猟者の育成及び安全対策については、素案の作成に向けて、記載内容を検討したい。

(松浦構成員) 狩猟者は、0頭又は1頭を捕る者と100頭、200頭を捕る者との二分されるので、狩猟者の育成に当たってはそのような違いや地域性も鑑みて、具体的にどの層の育成に力を入れるべきか検討しては如何か。

(庄子構成員) 市町村の有害駆除と道の個体数調整の目的が異なるため、双方が連動するような具体策を講じなければ、道による個体数管理は難しいのではないか。

(宇野部長) 一部の市町村からは、市町村の被害防止計画策定に当たり、根拠が必要になるため、目安となるものを示してもらいたいとの意見も挙がっている。これを踏まえると、道が目安となる捕獲目標を示して、市町村の目標を誘導していくというのが望ましい。

(2) 北海道エゾシカ管理計画(第6期)の方向性

ア 事務局(網倉係長)から資料11に基づき、次期計画の方向性について説明。

イ 質疑応答等(有 ・ 無)

(沖構成員) 次期計画の方向性については、これまでの議論が非常に反映されており評価したい。

道の捕獲目標を市町村の計画に反映させることは重要であると認識しており、そのためにも道のコーディネーター的役割が必要。

捕獲目標達成に向けて捕獲するにしても、現体制ではマンパワーが不足する事態が想定される。この場合には、セミプロが地域に溶け込んで捕獲を推進するといった仕組みが必要。単年で考えるのではなく、3年から5年程度の十分な時間をかけて、人脈を構築し、地域の信頼を得ることが重要。

侵入防止柵については、整備すれば一時的に農林業被害が減ることには違いないが、エゾシカ自体が減るわけではない。このため、侵入防止柵の整備は捕獲とのセットで活用してほしいという趣旨の文章挿入について検討いただきたい。

捕獲個体の適正処理については、森林管理者と狩猟者の間で最も多いトラブルであるため、計画にきちんと書き込んでいただきたい。

(伊吾田部会長) 認定鳥獣捕獲等事業者についての評価も追加しては如何か。

(宇野部長) 次期計画には是非、資源管理の考え方を取り入れた新たな管理水準を導入していただきたい。

(稲富構成員) 資源管理の考え方を導入するという意見について賛成。

道の捕獲目標である捕獲推進プランについて、毎年目標を変えるのではなく、数年に一度、頑健性のある目標として立てるべき。

行政職員の育成に関しては、道職員に限定せず、被害防止計画を主体となって作成している市町村職員も対象としたほうがよい。

(曾我部構成員) 資源管理の考え方を導入するという意見について賛成。

(松浦構成員) 屋外内臓摘出では衛生が担保されないといった話があったが、科学的に適切な方法で行えば、食肉処理場と同じレベルの衛生が担保できるとの論文もあり、一概に危険とは言えない。

現在は、無法地帯的に屋外で内臓摘出したエゾシカ肉が流通している状態のため、そのような事態を牽制する意味でも、道で屋外内臓摘出時の衛生的な基準を整理することには意味があると考えます。

(伊吾田部会長) トレインドパーソンやタグ制度については、是非検討していただきたい。

(稲富構成員) 資源管理の考え方を取り入れるに当たって、モデル事業の実施は極めて重要なので、是非計画に書き込んでいただきたい。現段階で計画に書き込めない取組についても、モデル事業の中で検証を進めるということは考えられる。

(宇野部長) 被害防止柵については、新設だけでなく維持管理が重要ということを書き込んでいただきたい。

また、道総研では柵の導入に当たって費用対効果を分析できる計算シートを作っているのので、こうした情報も書き込んでいただきたい。

(松浦構成員) 猟区制度には捕獲効率や安全性に加え、経済効果といった面からも利点がある。地域にどれだけのお金が還流されているかについては、各猟区で毎年計算しているはずなので、そのような情報も収集してみても如何か。

(事務局(網倉係長)) 猟区制度の評価に当たっては、その地域の設定している目標や経済効果の観点から考えていくのが妥当か。

(伊吾田部会長) 西興部村も占冠村も、地域の利害関係者が猟区管理を共に進めていくという方向性で行っているため、そうした点も非常に評価できる。

(宇野部長) 猟区は個体数調整のために設置しているものではない。きちんとした設置目的があるので、その目的に沿った評価というのが重要。

(曾我部構成員) 捕獲技術の向上について、囲いわなの捕獲技術はまだ進化する余地があるので、普及だけでなく技術向上を付け加えていただきたい。

くくりわなについて、一般的に捕獲個体は食肉利用に適さないと捉えられているが、必ずしもそうではないと考えている。どのように捕獲したものであれば食肉利用可能かといったことも研究していただきたい。

(伊吾田部会長) くくりわなについては、ヒグマがつく可能性や止め刺しのリスクなどもあるため、安全管理も強調していただきたい。

(宇野部長) ワシの鉛中毒問題が深刻化した際には、狩猟については残滓ステーションを設置し、市町村が回収するという仕組みが一度できたのだが、鉛中毒問題が落ち着いてからは、そういった努力が少し減ってしまったように思う。ここで、もう一度再考する必要があるのではないか。

(伊吾田部会長) 北海道の管理計画の下位計画に当たる知床地域の管理計画も北海道同様のスケジュールで、令和3年度に見直しが行われる。このスケジュール感を踏まえ、知床地域の管理計画とのすり合わせは予定しているか。

(事務局(網倉係長)) 今後、環境省と調整させていただく。

(宇野部長) 輪採制については、捕獲効率の低下防止だけでなく、希少猛禽類の繁殖への配慮といった2つの目的から導入に至ったもの。

また、世界遺産の隣接地域に当たる斜里町、羅臼町においては、北海道で議論している資源利用と被害防除のバランスについて同様の問題を抱えているため、是非、意見交換・調整をお願いしたい。

(3) 今後のスケジュール

ア 事務局(網倉係長) から資料12に基づき、今後のスケジュールについて説明。

イ 質疑応答等 (有 ・ 無)

(4) その他

ア 藤嶋担当課長から論点の所感。

イ 松浦構成員から(一社)エゾシカ協会のYouTube開設について情報提供。

○ 閉会

以 上

令和2年度（2020年度）エゾシカ対策有識者会議
 （第7回エゾシカ管理のあり方検討部会）
 出席者名簿

日時：令和2年12月18日（金）9:15～
 場所：かでの2.7 1040会議室

1 構成員

酪農学園大学 農食環境学群環境共生学類	准 教 授	伊吾田宏正
道総研 エネルギー・環境・地質研究所	研 究 主 任	稲富 佳洋
北海道鉄砲火薬商組合	組 合 長	沖 慶一郎
北海道大学大学院 農学研究院	准 教 授	庄子 康
エゾシカ食肉事業協同組合	代 表 理 事	曾我部元親
（一社）エゾシカ協会	理 事	松浦友紀子

2 関係機関

道総研 エネルギー・環境・地質研究所	自然環境部長	宇野 裕之
--------------------	--------	-------

3 関係所属

農政部生産振興局技術普及課	農業環境係長	水山 亨
水産林務部林務局森林整備課	保護種苗係長	畑中 香之
	主 査	山岡 克年
水産林務部森林環境局道有林課	道有林整備係長	梅津 和範

4 事務局

環境生活部環境局自然環境課	エゾシカ担当課長	藤嶋 泰道
	課長補佐（エゾシカ対策）	坂村 武
	課長補佐（エゾシカ活用）	寒河江 正
	エゾシカ対策係長	網倉 隆
	主査（エゾシカ）	栗林 稔
	エゾシカ活用係長	山本 千草
	主 任	島本可奈子
	主 事	加藤 葵